

「見えないだけ」定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

問1 「見えないだけ」の作者を漢字で書きなさい。

問2 「見えないだけ」の詩の形式を漢字5字で書きなさい。

問3 「見えないだけ」は何連からできているか答えなさい。

問4 「見えないだけ」の第一連の4行目にある「海が眠っている」には、どんな表現技法が使われているか。漢字で答えなさい。

問5 「見えないだけ」の第一連の1・2行目「空の上にはもっと青い空が浮かんでいる」と、3・4行目「波の底にはもっと大きな海が眠っている」には、どんな表現技法が使われているか。漢字で答えなさい。

問6 「見えないだけ」の第一連の6・8・10行目「ことばがはぐくんでいる優しい世界」「蕾をさし出している美しい季節」「待ちかねている新しい友だち」には、おなじ表現技法が使われている。どんな表現技法か、漢字で答えなさい。



問7 「見えないだけ」の1・2行目「空の上にはもっと青い空が浮かんでいる」で、作者はどんなことを伝えようとしているか。最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：自然にくらべて人間の存在は小さなものであること
- イ：物事の本当のすがたを知ることが大切だということ
- ウ：今見えているものがすべてではないということ
- エ：世の中には無限の可能性が満ちているということ

問8 「見えないだけ」第一連の6行目にある「ことばがはぐくんでいる優しい世界」とは、どのような意味か。最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：ことばが、優しい世界を作っている
- イ：ことばが、優しい世界を守っている
- ウ：ことばが、優しい世界を育てている
- エ：ことばが、優しい世界と共存している

問9 「見えないだけ」第一連の10行目にある「待ちかねている新しい友だち」とは、どのような意味か。最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：待つことを我慢できなくなった友だち
- イ：ずっと待っている友だち
- ウ：そわそわと待っている友だち
- エ：待とうかどうか迷っている友だち

問10 「見えないだけ」第一連の10行目には「待ちかねている」とあるが、「待ちかねる」の正しくない使い方をしているものを次の中から○で囲みなさい。

- ア：妹は家族旅行に行く日を待ちかねている
- イ：ライオンが獲物をとらえようと待ちかねている
- ウ：友人が約束の時間にあらわれず、僕は待ちかねて帰った
- エ：ずっと並んだものの、売り切れだったので結局待ちかねただけだった



問11 「見えないだけ」に登場する「優しい世界」「美しい季節」「新しい友達」は、この詩の中でどんなことを表すものか、最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：手に入れることが難しいもの
- イ：未来に確かにあるもの
- ウ：誰もが望んでいるもの
- エ：永遠に変わらないもの

問12 「見えないだけ」の11行目には「あんなに確かにあるものが」と書かれているが、「確かにあるもの」とはなにか、「見えないだけ」の中に書かれているものを全て抜き出して答えなさい。

問13 「見えないだけ」の詩の中で、作者の思いが最も現れている「ひと続きの2行」を抜き出して答えなさい。

問14 「少し遠く」が表すものとして最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：過去の記憶
- イ：新しく住む場所
- ウ：近い将来
- エ：行きたい場所



問15 「見えないだけ」の詩には「空の上」「波の底」「胸の奥」「次の垣根」「少し遠く」という言葉が使われているが、これらは「確かに在るもの」がある状態であることを表現するためと考えられる。どのような状態か、詩の中から10字以内で抜き出して答えなさい。

問16 12行目「まだここからは見えないだけ」の「ここ」の内容として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：過去に自分がいた場所
- イ：今自分がいる場所
- ウ：未来に自分がいるであろう場所
- エ：新しい友達が待っている場所

問17 「見えないだけ」の詩では、何が「見えない」と作者は伝えているのか。詩の中から7字で抜き出して答えなさい。

問18 「見えないだけ」で作者が伝えたい思いとはなにか、最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：今の自分には見えなくても、物事にはもっと大切なものがあることを忘れないようにしなければならない。
- イ：人生とは、自分が思う以上にたくさんのことが待ち構えているから面白いのだ。
- ウ：世の中には、まだ知らない素晴らしいものがたくさん溢れているので、自分から一歩踏み出してみよう。
- エ：世の中には、今知っているものよりも優れたものがたくさんあるので、自分の未熟さを知らなければならない。



「見えないだけ」定期テスト対策練習問題（解答）

問1 **おれけいこ
牟礼慶子**

問2 **口語自由詩**

【解説】「見えないだけ」は、今の話し言葉である口語で書かれている。さらに、文字数には特に決まりのない自由詩である。

問3 **二連（2連）**

【解説】詩の連とは、詩を大きなまとまりで分けたもので、詩の構成単位のこと。「見えないだけ」は、1～10行目と11～12行目の2つの大きなまとまりからなっている。

問4 **擬人法**

【解説】海は、人ではないので眠らないが、まるで人のように喩えている。

問5 **対句法**

【解説】似たような表現や言葉を対にすることで、印象を強く持たせる表現技法である。

問6 **体言止め**

【解説】それぞれ「世界」「季節」「友だち」などの名詞（体言）で終わっている。

問7 **ウ**



問8 ウ

【解説】「はぐくむ」とは、漢字では「育む」と書くように、「養って育てる」という意味。

問9 ア

【解説】「…かねる」とは、その行動や動作をすることが難しい状態のこと。「見えないだけ」で使われている「待ちかねている」は、「待つことが嫌になって我慢できなくなった」というよりは、「早く会いたくて待ってられない」という意味。

問10 エ

【解説】「待ちかねる」とは「今か今かと待つ」「楽しみで待つことがもどかしいようす」「来るのが遅く、待つことが我慢できなくなる」という意味。

問11 イ

【解説】「確かに在る」けれど、「まだここからは見えないだけ」なので、イの「未来に確かにあるもの」が最も適切。

- 問12
- ・もっと青い空
 - ・もっと大きな海
 - ・優しい世界
 - ・美しい季節
 - ・新しい友だち

問13 あんなに確かにあるものが まだここからは見えないだけ

問14 ウ

【解説】新しい友達が待っているのは、「まだここからは見えない」だけの未来である。



問15 ここからは見えない(9字)

【解説】「空には」「波には」「胸には」「垣根」「近く」と書いてしまうと、「ここから見える場所にある」という印象なのに対して、「空の上」「波の底」「胸の奥」「次の垣根」「少し遠く」というような「今いるところからは見えない向こう側」という印象を与えることができる。

問16 イ

問17 確かに在るもの

問18 ウ

【解説】「まだ見えない」ものは、「もっと青い空」「もっと大きな海」「優しい世界」「美しい季節」「新しい友だち」が挙げられているように、「素晴らしいもの」のことである。それらは、「まだここからは見えないだけ」と書かれており、それは逆に言えば「一歩踏み出せば見えるようになるもの」という作者の思いが込められている。

